

# 転ばぬ先のツエ　もう転んだ人のコエ ～中学受験 SOS

b y　広島の家庭教師藤田

アナタのお子さんは、

アナタが願ったほど

最高

ではない代わりに、

アナタが悲観するほど、

最悪

ではない

## 目次

- ・はじめに
- ・転ばぬ先のツエ

### 転ばない為の十か条

第一条 「蛙の子は蛙」

第二条 「恐怖」による服従の結果は最悪の結果を招く

第三条 「見守る」は「監視」とは違う

第四条 「話さない」のではなく「話せない」

第五条 子供の「ウソ」は非常事態の証

第六条 あなたの「序列」は本当に正しいか？

第七条 近所の「情報戦」には参加するな

第八条 「手段を選ばない子」は上の下

第九条 「期待」する前に「信頼」せよ

第十条 「子供にはワカラナイ」は間違い

・もう転んだ人のコエ

転んだ人から学ぶ十の声

第一声 大手の塾に入れたのに

第二声 「高学歴」家庭教師を呼んだのに

第三声 小さい頃から英才教育したのに

第四声 子供は「頑張っている」のに

第五声 勉強に専念させたのに

第六声 両親の学歴は高いのに

第七声 学校ではすべて「よい」なのに

第八声 「最高水準」問題集をやったのに

第九声 「分からない」と言わないのに

第十声 中学受験希望を納得したのに

・あとかき

・謝辞

はじめに

私は、一九九八年より家庭教師として仕事を開始し、今はフリーとして活動しています。

- ・ 受験生の指導（特に中学受験指導が多い）
- ・ 不登校、人間関係に悩みのある子の指導
- ・ 得点三割以下であるが、短期成果を期待

私は、他の家庭教師が、最初から断る生徒さんを指導してきました。その中で、感じる事は、近年、前の三つの状況が重なる子供さんが増えている事です。特に、昨今の中学受験ブームの中、小学生の段階で、大きな挫折を経験する子供の増加を強く感じています。

私が目にした子供達は、おそらく、最初はデキルお子さんだったのですが（だからこそ、中学受験を希望されたのでしょう）、末期の状態になると、その影は全くありません。

おそらく、この本を手にとる多くの親御さんは、「我が子は、大丈夫である」と思っておられると思います。

けれども、私が指導するようになって、子共について、様々な事実、初めて気がつく親御さんは非常に多く、「こんなはずではなかった・・・」ともらされる事が多々あります。

皆さんに、質問します。

- ・ 親御さんは、中学受験経験者ですか？
- ・ 親御さんの中学受験は成功しましたか？
- ・ 過去問を一通り解いた経験はありますか？

おそらく全ての問いに「いいえ」と答える方がほとんどです。親御さんが、中学受験の実態を知らなさ過ぎるという事が、大きな悲劇を招いていると感じます。また、親御さんが無知である最大の被害者は、子供達です。

これから、お話する事柄は、中学受験で陥りやすい間違いを分かり易く説明した物です。事例は、実際に私が目にした問題がもとになっています。全ての事例が、貴方のお子さんにも十分に、起こりえる事です。もしも、思い当たる点があれば、見直してみてください。

「間違いを認める」勇気こそ最大の策です。

「ウチは大丈夫」

この思い込みで見過ごしてきた子供から数々のサイン

「ウチは大丈夫なはず・・・だった」

この言葉は、いざ事件が起こってしまうと非常に無意味です。

他の家で起こる事は、アナタの家でも起こる事です。

「備えあれば憂いなし」自分の状況を客観的に検証してみてください。

## 転ばぬ先のツエ①

「蛙の子は蛙」は「過剰期待」の特効薬

### ◇「蛙の子は蛙」の真意とは？◇

ある有名私立中の先生が、授業開始早々に子供達に言い放った言葉でもあるようです。

有名私立の先生は、比較的デキル子供達を多く見てきた人です。そして、親の願望と言うのは怖いもので、いくら我が子が優秀でも、果てしなく「もっと、もっと」と要求します。

親によるプレッシャーは凄まじいものです。そして、そのプレッシャーは、何のためにかけられるのでしょうか？おそらく、親御さんは、「子供ため」と言うでしょう。

この「子供のため」というのが、曲者です。

そして、「子供が望んでいる」と言う事も、しばしば耳にする、親御さんの常套句です。

では、そのような親御さんが、子供が「辞めたい」といえば辞めさせるのでしょうか？

結論から言えば、絶対に辞めさせる事はありません。子供本人が、本当に病気になってしまうまで、そのプレッシャーは続きます。

そんな状況に心を痛めていた先生の言葉は、非常に重みがあるように思います。

### ◇あなたの子供時代を思い出してください◇

家庭教師を希望されるご家庭でにおいて、

「先生、もっと宿題を出してください」

と言われる方は多いです。特に中学受験を希望される親御さんは、「宿題」が大好きです。

けれども、塾に通っている場合、塾からも、毎回驚くような量の宿題が出されます。

一言で言うと、この親御さんは、中学受験の塾がどれだけ大変なのかを「知らない」のです。それは、受験の経験者ではないからと言う事もありますが、子供に関して、必要な事実を把握していない面もあると思います。

そして、小学生に「何時間も勉強しろ」などという親御さんは、間違いなく勉強した事がない人でしょう。小学生の子供が、そんなに長い時間、集中するのは、ムリだからです。

「先生、ウチの子は、勉強しないんです」

はっきり申し上げて、それが普通です。さらに、付け加えると、「皆さんも、そうだったでしょう？」子供の前で、親御さんに聞きたくなります。余りにも認識が乏しい声です。

・小学生の時、遊ぶ時間を極端に、制限された事がありますか？

・そして、より悲惨な、小学生で遊ぶ時間が全くなかった親御さんはいますか？

おそらく、そのような親御さんは一握りです。あなたのお子さんは、皆さんがかつてそうだったように、「遊びたいだけ」なのです。

◇我慢に我慢を重ねているのは親のため◇

小学生は、遊んでもいい時です。けれども、子供達は、遊びたいのを、必死に我慢して、塾に行っているという事を忘れないで下さい。

そして、彼らが黙って、塾に通っているのは、親の期待に答えたいと思っているからだという事を忘れないで下さい。

親御さんの存在が、どうしてもよい子供なら、親の目を気にする必要はないのです。

あなたの「視線」を受けたいために、子供は、テレビも見ず、夜遅くまで寝ずに頑張ってしまうのだという事に気づいて下さい。

あなたのお子さんは、親が、ご近所や親戚間での地位を築き、尊敬のまなざしで見られるための道具になっていると知っていても、親のために努力をしているのです。

親が勝手に描きつづける、自分の「将来」を、ただひたすらに信じている子供達の視線に気がついてください。

最後に、親御さん自身がやらなかったことを、子供に課すのは無理な話です。なぜなら、結局は、子供は親を見て学習するからです。

親御さん自身ができない、または、しない事を子供に期待するのは、非常に身勝手な行為です。その言動を慎む事が、子供を、潰さずに済むカギになると思います。

## 転ばぬ先のツエ②

「恐怖」による服従は最悪の結果を招く

### ◇最大の恐怖は「暴力」◇

子供が感じる恐怖や圧力とは、一体何でしょうか？

おそらく、すぐに思い浮かぶのは、「暴力」による圧力でしょう。確かに、この「暴力」による圧力は、相手に自分のいう事を聞かせる」という目的一点に搾れば、非常に有効なのは確かなようです。

私が塾に通った時代は、中学受験の塾において、何らかの形での「体罰」が、割とあったように思います。それは、大手の塾を含め、どこの塾でも、程度の差はありましたが、頭を叩かれたり、頬をひっぱたかれたりしていたように思います。

当時、私は、中学受験の塾から泣いて帰った事がありました。両親は、てっきり自分の子供が殴られたのだと思ったようです。けれども、よく話を聞いてみると、他の塾生が殴られた姿を見ただけでした。親にとっては、腑に落ちない事のようにでしたが、私にとってそれくらい、恐怖の瞬間でした。(現在、それらの塾が、以前と同じ手法を執っているのか否かは把握しておりませんので、誤解のないようにと思います)

そして、当時の私の塾での目標は、「叩かれない事」になりました。

どうすれば、叩かれないか？

それは、必死に考えなくても答えは簡単にでました。

「イイ点」を採ること。

これだけで、十分に対処できる話です。私は、これを目標に掲げました。

私の目標は、合格する事が第一目標ではなく、殴られない為に、毎回のテストで高得点を出し、そして仕上げて、難関中学校に、合格する必要があったのです。

このような目標を持ってしまった私にとって、中学校での勉強は意味のないものでした。

なぜなら、恐怖がないからです。「やらねばならない」理由が私の中にありませんでした。

ですから、中学校で何を勉強したのか、私は、ほとんど記憶がありません。解き放たれた鳥のように、毎日遊んでいただけです。

### ◇「暴力」は「さらなる暴力」を生む◇

私のように、「暴力」での圧力を受けている子供は、今でも勿論います。



私が目撃したのは、両親による体罰です。

暴力で子供を扱う事は、リスクがあります。一つ目は、暴力を振るわれた自分よりも力が弱い、兄弟や動物に対して、同じような暴力を振るい、当り散らす事であると思います。

二つ目は、私自身はまだ目撃した事はありませんが、中学生辺りから「力の逆転現象」が起これ、子供から親への家庭内暴力へと発展する場合があります。子供が感じていた恐怖を今度は親御さんが思い知るわけです。

暴力を受けた子供が、人に対する腹いせをしない場合、物にあたる行動もみられます。おそらく、何らかの形で発散させなければ、やっていけないからでしょう。

最後に、自分の身を守るには、その暴力を振るう人の言う事を聞いていけばよいのであって、それ以外の人の言う事を聞く必要は、一切なくなります。他人を「拒否」あるいは、「無視」といった方が適切かもしれません。

そして、子供が、言う事を聞かなくなると、さらなる暴力で対処する人をみかけます。この種の方法で、子供に言う事を聞かせたい人の特徴です。

暴力が暴力を生む状態に陥ってしまうと、いわゆる、「教師」としての助けが必要であるというよりも、医療機関に介入してもらうしか手がないと言っても良いと思います。

その生徒さんの場合も、何度も交渉を重ねましたが、決裂し、私が結果的に、ギブアップしたかたちになりました。

日本の教育では、指導に、何らかの「恐怖」を扱う手法が、今も存在します。体罰はその最たるものです。教師が行う体罰には、否定的な人も増えました。けれども、親が使う体罰は、その見解が難しく、介入も困難です。

#### ◇検討すべきは何かを見極める◇

けれども、今の私が、この生徒さんを持ったなら、違う結果になったかもしれません。それは、この生徒さんは、特に珍しい子供ではないからです。けれども、その事実は、指導を七年も中学受験の裏側を見続けてきたからこそ言える言葉です。当時の私は、そのような生徒さんへの対応に苦しみました。

先ほど紹介したやり取りは、私にとって、実は、最初の中学受験指導でした。色々な意味で、私自身の経験が足りなかったり、判断が甘い部分もあったように思います。

おそらく、このお子さんも、最初は「デキル」お子さんだったのでしょう。けれども、

「ワカラナイ」があまりにも蓄積されると、学校で勉強するレベルの話も、理解不能に陥っていると言う事を、実感した瞬間でした。

その後、私は、中学受験において、あらゆる側面で、低迷してしまったお子さんにとって、多少のウデを発揮できる先生に成長しました。あの時の失敗がなければ、この種の難しい指導に、積極的に、取り組む事はなかったと思います。残念ながら、私は、全く失敗しないほど優秀な先生ではありません。

けれども、その失敗を次に生かすことだけが、私に出来る唯一の事だと思います。

#### ◇家庭教師も相談できる人がいない◇

ひとたび、トラブルがあると、多くの先生が、自信を失って、辞めていきます。

家庭教師という職業は、いわゆる「家族の問題」に直面せざるを得ない状況にあります。

家庭教師をやっていて、この種の問題を見た事が無いと言う人がいたなら、それは、本当に幸運な事か、あるいは、その種の問題に気がつく能力さえない先生だと言ってよいと思います。

たとえ、家庭教師が問題に気がついて、何とかしようと試みても、教師自身が若い場合、ご家庭では、教師を「使っている」という意識が非常に強く、アドバイスをすんなりと受け入れてもらえる事は、皆無です。「あなたは、育児の経験者ではないでしょ？」この考えで、聞く耳さえ持って頂けない事がしばしばです。

では、そのような考えを持つ親御さんは、トラブルを抱えた子供を持つ家を、何軒も周った事があるのでしょうか？

また、他家の子供さんのトラブルや、他の家族のトラブルの解決に尽力した事があるのでしょうか？おそらく答えは「NO」です。

プライドや、見栄や、様々な葛藤があるとは思いますが、「外から見た様子」を少しでも聞くだけでも、事態は変わってくるでしょう。

「問題を知りながら解決できない」この葛藤こそが、家庭教師特有の、そして最大の悩みであると思います。けれども、そんな教師に対して、少しのアドバイスが効果をもたらす場合があります。このアドバイスの恩恵は、教師だけではなく、生徒さんにも直結します。「指導者の質」の向上や、相談口の開設は、生徒さんへの適切な指導につながります。

教師の悩みを聞く事が出来る相談者の育成は、勉強以外の課題の解決も、要求される事

が多い家庭教師の現状を考えると、急務な課題であると言えます。

#### ◇本当は怖い「言葉での脅し」◇

また、「恐怖」のなかで、意外に見落とされがちなのは、言葉による脅しです。

例えば、もし、〇〇しなければ、

「遊ばせない、お小遣いをあげない、おもちゃを買ってあげない・休憩をあげない、友だちとの電話を取り次がない、家に入れない」

子供さんから聞いてみると、色々な種類の脅し文句があるようです。

また、何かを限定する形での、いわゆる、強制による脅しもあります。

「〇〇の学校にしか行かせない、模試で成績優秀者にならないとダメ、一番にならないとダメ、〇〇ちゃんに負けてはダメ」

挙げれば、きりがありません。そして、おそらく、言った側としては無意識に、子供さんに対して口にしてしている言葉でしょう。

また、この脅しは、暴力での脅しと違って、言った側にほとんど罪悪感がありません。

つまり、相手を傷つけているという認識が、全くないのが特徴です。ですから、その「脅し」に謝罪がある事は皆無です。また、暴力は痕が残りますが、言葉による脅しは、痕が残るづらく、第三者からの救済は困難です。

中学受験の生徒さんから、親への不平を聞く機会があります。しかも、「日常的に」です。

けれども、この種の不平は、高校受験や大学受験では、一切聞くことがない種類の、子供さんからの訴えであるということを、皆様に知って頂きたいと思います。

#### ◇結局は、無意味である「脅し」◇

このように「脅し」を頻繁に使うご家庭では、いずれ、というよりもその時点で、子供からの親への尊敬や、信頼は、全く、なくなっています。一番近くにいる親が、自分の人生を妨げるものでしかない子供にとって、周りの人間を信じてみようと思う気持ちが育たないのは、当然の事であると思います。

私が助けようとしても、非常に難しいのが、この種の「脅し」を受けた生徒さんです。つまり、「脅し」は二重の意味で、無意味です。

「親」そして「人間」に対する信頼を、子供自身が、全く持てなくなってしまうのです。その上、助けようとする人でさえも、当事者自らが拒否してしまうのです。

「脅し」は、どんな時にも、決して許されるべきものではないものだと感じます。

もしも、そのような方法で、子供さんに対峙している場合、即刻、思い直す事をお勧めいたします。

親御さん自身の自覚がない場合、子供さんを見てください。学校や塾、家の中で、人間関係を築く事が上手く出来ない状況が既にあれば、親の「脅し」の影響を疑うべきです。

何らかの形で、「威圧」や「脅迫」を受けつづけている子供は、「萎縮」するか、もしくは、「高圧的」になったりします。「高圧的」というのは、つまり、親と同じく有形無形の「力」で世間を渡っていこうとする傾向です。

この話を聞いて、「大げさな」と思う方は多いでしょう。

けれども、「それだけの事」が、新聞紙面を大きく賑わす事件へと発展してしまっている事は、皆さんご承知の通りです。

ですから、是非、親御さんの「物言い」や「振る舞い」を、子供の視点から、検証してみる事をお勧めします。

### 転ばぬ先のツエ③

「見守る」が「監視」になっていないか？

#### ◇「熱心な親」の盲点◇

中学受験を望まれる親御さんは、御両親とも教育に熱心である場合が非常に多いです。

熱心であると言う事は、それ自体はさほど問題ではないのですが、度が過ぎると、「余裕のなさ」に繋がる面がある様に思います。

つまり、ここでは、自分の言動を、客観的に見ることができない事を意味しています。

中学受験のお子さんは、体力の面からも、また知識などの面からも、親御さんに反発したり、強く主張する事が、まだまだ難しい面があります。つまり、親が間違っている場合、それを指摘し、正そうとする人間が、家の中に一人もいない状態が続いてしまうのです。

この種の、「熱心」な親御さんが、何の罪悪感もなくやるのが、子供への「監視」です。

普通であれば、子供と顔を合わせて直接、

「今、何をやっているの？」

と尋ねれば済む話です。

けれども、子供とのコミュニケーションに乏しいご家庭では、あらゆる事柄を、子供に内緒でチェックします。

ノートのチェック、手紙のチェック、テストのチェック、携帯のチェック・・・。

その他、色々あるでしょう。

そして、そのチェックの前に、なぜ、我が子は、親に対して、自分の置かれている状況を話さないのかを知ろうとする人は、ほとんどいないと言っても良いと思います。

「チェック」する親御さんが欲しているものは、子供の状況を「見る」あるいは、「知っている」という一方的な満足感だけです。

不思議な事に、「見た」だけで、あとは、何の有効な手も打ちません。つまり、そのような親御さんにとっては、「見る」という事が、第一目的であり、子供のために、その後、何ができるかということは、全く考えが及ばないようです。それでは、たとえ子供の危機を「見ても」ムダに終わってしまいます。

#### ◇子供には大人と同じプライバシーがある◇

そのように、身边を洗いざらい監視されて、

喜ぶ子供はいません。

「監視」をしている親御さんが、よく言う言葉で、以下のようなものがあると思います。

「親は子供の事について知る権利がある」

確かに権利はあるかもしれませんが、けれども、あなたがやっている事は、ただでさえ、親に対する信用が乏しい我が子が、親に対する信用を完全に失いかねない行為であるという事を認識していますか？

あなたの「知る権利」は、その犠牲を払うほど重要な事でしょうか？今すぐそのような行為を止める事をお勧めします。

また、次のような言葉もあります。

「子供が話してくれないのだから、仕方がない。他に方法がない」

悪いのは、子供でしょうか？

親は全く悪くない？

そう思う親だからこそ、話さないのです。

◇「見守る」とはどういうことか？◇

現代の社会では、子供さんの後ろに親御さんが、一心同体のようにくっついている状況がよくみられます。

そのような幼児の子供のような扱いをされる子供にとって、私が築き上げる生徒さんとの距離感は、子供さんにも、そして親御さんにとっても非常に新鮮に感じるようです。

人はそんなに強くありませんが、親御さんが心配するほど、子供さんは、「無力」ではありません。助けが欲しければ、子供はちゃんとシグナルを出します。その合図を見逃さない程度でよいと、私は考えています。

子供の人生と包含関係にある人生ではなく、親御さん自身の人生を、子供さんと平行して楽しんで頂ければと思います。

#### 転ばぬ先のツエ④

「話さない」のではなく「話せない」

#### ◇なぜ、「家庭教師」には話すのか◇

「はじめに」にも少し書かせて頂きましたが、私が生徒さんのお宅に出入りするようになって、子供に関して、はじめて露見する事柄がある場合は、決して少なくありません。

なぜ、家庭教師には話すのでしょうか？

「宿題をやっていない、授業がわからない。いじめを受けている、順位が低いなど」

自分にとって不利な事柄でさえ、私が尋ねなくとも、生徒さん自ら私に話してくれます。

では、逆に、なぜ、子供達は、親御さんに、話す事が出来ないのでしょうか？

多くの人は、「近すぎるから」とか、「親には言いにくいものだ」という判断をされるでしょう。つまり、親御さんにとって改善のしようがない点を、その理由に挙げることが多いのです。

では、たいていのお子さんは、自分の親に、必要な事は話していると言う事実を聞いても、あなたは、その判断に自信がもてますか？

子供は、「あなたに」話すのが嫌なだけです。

#### ◇原因は親の「思い込み」◇

子供達が話しにくい原因として、親御さんが描く我が子像と、子供達の実際の姿があまりにもかけ離れている場合があると思います。

つまり、子供達は、その差に気が付いていますが、親御さんは、その事実を見ようとはしていません。子供達は、「差」があることを知っているからこそ、幻滅や叱責される事を恐れて、言い出せない子供が多いと思います。

あるいは、会話の中で、

「勿論、宿題はやっているよね！」

と言う具合に、断定的に、何の疑問もなく言われてしまうと、言い出しにくい面があるようです。

また、物事を直接的に聞く事が、正しい答えを導くとは限りません。

「今やっているところは、難しい？」

と聞くと、「少し難しい」と答えるかもしれませんし、その答えから、宿題を一人でこなす

事が困難な状態にあることが推察されます。

あなたは、子供との話が可能になる、子供と共通の認識をもっていますか？自分の親には、共通認識がないと、子供さんに判断されているからこそ、子供は話をしないのです。

◇やっではいけない「過去に対する罰」◇

子供が打ち明けてくれる状況として、現状が改善された時が多いような気がします。

私は、子供が、学校や塾の、宿題をやっていない事を知っていますが（表情などで簡単に分かります）その事について、証拠を探し出し、説教する事はありません。

分からない部分をなくせば、たとえ宿題を出していなくても、「先生、やってみた！」と言って、自信を持ってノートを見せてくれます。

そして、その後、その子供さんが言う事は、

「実は、宿題をやっていなかったけれど、今は、分かるようになったから・・・」

と少し恥ずかしそうに告白してくれるだけです。

そのような子供の過去の告白に対して、

「どうして、宿題をしなかったの！」

「どうして、言わなかったの！」

と責める事はありません。せっかくの一世一代の告白を無駄にしてしまうからです。子供は、宿題をしないことが悪い事だと自覚しているからこそ、黙っていたのです。

そして、分からない状態から、分かるようになり、そして宿題を「やっていない」罪悪感から開放されたからこそ、事実を話してくれたのです。その勇気を理解してあげて欲しいと思います。

問題の本質を見失わない事により、問題が長期化することを食い止められると思います。



## 転ばぬ先のツエ⑤

子供の「ウソ」は非常事態の証

### ◇「ウソ」は「事実と向き合えない証」◇

悲しい事に、私が指導するお子さんは、塾においても、さらに自分の家の中でも追い詰められている場合が多いです。

従って、他人から見れば、その場しのぎと言われても仕方のないウソをつくお子さんは多いです。普通は、ウソがばれないように、その年齢にあったヒネリのあるウソをつくと思いますが、私が担当する生徒さんは、精神年齢が実年齢に達していない印象をもつ生徒さんも多く、小学校の低学年程度までがつく、バレバレのウソをつきます。

けれども、子供本人から見れば、それは、ウソではなく、「事実」になります。

問題は、なぜ同じ事柄について、百八十度の全く違った見解が生まれてしまったのか？という事です。

人間は、追い詰められてくると、周りが見えなくなっていくます。

そして、そんな自分を何とか安心させようと、事実を見る目が、変化し始めるように思います。子供のウソは、その典型例です。

### ◇恐怖から逃れる簡単な方法がウソ◇

子供達が、何かを隠す場合、何かがうまくいかなかった結果として、その状況になってしまったという面があると思います。

例えば、次に挙げたものが代表的です。

「ちょっとだけ遊んでしまった、分からないのに分かったと言ってしまった」などです。本人にとって「ちょっとだけ」が、大きな失敗になってしまったというパターンが多いです。

つまり、子供は、望んでその状況に陥ったのではないという事を理解して頂きたいです。

苦しい状況を他人に話して、助けを求めれば問題はありません。けれども、ここで重要なのは、助けを求める相手、つまり我が親について、子供は、自分の困難な状況を、助けてくれる相手であるとは思っていない事です。

どちらかと言えば、自分の苦しい状況をさらに苦痛にする相手であると思っています。

それは、「叱責」による苦痛です。

「分からない」という状況から抜け出す事は、簡単に行きません。一方で、叱責による苦痛から逃れる事は、割と簡単に出来ます。

「叱責されるであろう事実」を、「叱責するであろう相手」に言わない事です。

#### ◇「ウソ」の相関関係◇

ウソをつくお子さんを見てみると、その親御さんも、家庭教師にとって非常に重要な情報を小出しにする、または、不利な事は、最小限で伝える傾向があるように感じます。

「言っていないだけ」

「他人である先生には、話す必要はない」

「出来ないわけではなく、今回は、たまたま調子が悪いだけ」

私のような若い家庭教師に、最初から全てを話すのは無理な話でしょう。

けれども、私もそれなりに経験を重ねていますので、例えば、模試などの点数や、生徒さんの行動や表情から推察される事を並べていけば、大方の予測はつきます。特に、時間がない場合、正直に話す事をお勧めします。

あなたのお子さんは、本当に今回に限って、点数を取ることが出来なかったのでしょうか？そして、そもそも、親御さんが期待する点数を取る事が可能なだけの力が、お子さんには身についてきているのでしょうか？

塾の看板をくぐったからと言って、知識が身につくわけではありません。そして、「デキていた」頃の子供の幻影を、現在の子供に重ねても無意味です。幻は、何も生みません。

私が、ウソを見抜く時や、子供の状況の判断基準は、表情やしぐさです。

あなたのおこさんは、なかなか勉強部屋に行こうとしない事はありませんか？

また、最近、親と話をする時、言葉を選ぶように、あいまいな答え方をしませんか？

あなたの質問に対する、言葉を発する時に、視線が下を向いて話していませんか？

私が見ていることは、そういうところです。

「尋ねる」だけが、子供を把握する手段ではありません。また、親御さんの子供に対する現状把握が歪んでいるからこそ、子供達は「ウソ」がバレないと思っているのです。

#### ◇ウソをつかなくてもよい現場を作る◇

子供達の世界が、楽しく困難な状況など一つもないようなものであればよいのですが、それは無理な話です。私は、親から、言われた言葉は、「絶対に助けてやる！」

「もしも」の時に、必ず知恵を貸してあげる事を、子供さんに理解させる事が肝心です。

そして何よりも、日頃から、「もしも」のときに、「頼りになるだろうな」と子供自身が  
思える親御さんであって欲しいと思います。

## 転ばぬ先のツエ⑥

あなたの「序列」は本当に正しいか？

### ◇中学受験は「序列」の歴史◇

近年、なぜ、中学受験希望者が増えたのでしょうか？その点については、おそらく公立中学校への不安を挙げられる方が多いでしょう。

けれども、本当の理由は違うところにあるようにも感じます。

つまり、昨今の現象、「セレブリティ」に代表される「一流」意識や、「勝ち・負け」の意識の延長に、この中学受験もあると思います。

現在、中学校のレベルやランキングが色々な紙面を飾っているのは有名な話です。また、私立の中学校ならどこでも良いと言うわけではなく、その中でも「イイ学校」を目指して皆さん頑張っておられます。

つまり、中学校受験を希望される親御さんの頭の中では、公立中が最もランクが低く、その頂点にあるのが、有名私立中学校です。

「有名」というのは、伝統があるなどと言う事よりも、これまた「有名」大学への合格実績での評判が必ずあると思います。そして、「有名」大学では、「有名」企業にどの程度人材を送り出しているかを競い合っています。

この場合、重要な事は、全ての評価基準が、「数字」であると言う事です。

数字は、確かに、はっきりとした差が出る基準ではあります。

けれども、そのような基準だけで、選んでしまってもよいのでしょうか？

### ◇「数字」以外の価値基準もある◇

私が、学生当時、好きな先生と授業は、その学校の歴史を作ってきた先生によるものでした。そして、私が評価しない先生は、その歴史や伝説に胡座をかいただけの先生です。

この二つの先生の違いは、その授業が、本当に「楽しい」ものであるかと言う事に搾られると思います。

最近よく言われることですが、親御さんに、

「楽しい授業をしてください」

と頼まれる事が多いです。この種の申し出は非常に困ります。おそらく、私が先に表した「楽しさ」とは全く正反対であるからです。

親御さんが望まれる「楽しさ」は、つまり、その瞬間だけ「アハハ」と笑いがあるようなものでしょう。私が言う楽しさとは、「興味深い、知的に面白い」の意味です。

私が評価する先生は、「知識を関連付け、そして、広げてくれる先生」でした。

皆さんは、なぜ、ナチスドイツが生まれたかその経緯を知っていますか？また、なぜ、日本は明治維新に向けて動き出したのか、その事実を、世界的な視点から見た流れを知っていますか？

私が言う面白さとは、そういうことです。

当時、私が受けていた授業では、高学歴で、受験競争を勝ち抜いた若い先生は、「一問一答式」での授業がお好みでした。

そのような授業は、十年経った今、全く記憶に残らず、捉えどころがありません。

つまり、皆さんは、各学校が、どのような指導方法を取るのかをご存知ですか？

ちなみに、私の学校では、当時、追試は、ほとんどありませんでした。

その理由は、「追試」は基本的に、「強制」であるからだと思います。けれども、「強制」されないとやらない人には、追試がないと困るかもしれません。

また、毎回のテストの成績順に、クラスや、座席が決定される学校もあります。又、学校内で差別意識や敵対意識が強い所もあります。

親御さんが、欲し、また、安心する情報は、実際に学校で過ごす子供さんの立場から見れば、ごく一面的なものです。皆さんが興味をお持ちである、学校の「考え方」の核心や、本質を掴む事をお勧めします。

学校に「入る前」以上に、「入った後」が、充実している生活を、是非、送ってください。

## 転ばぬ先のツエ⑦

近所の「情報戦」に参加する必要はない

### ◇「情報戦」の真の被害者◇

中学受験において、親御さんの情報合戦は、熾烈を極めております。

そして、ご自分に不利な情報があると、実際に出来事が起こっていなくても、それだけで、不安に駆られるようです。

その不安を解消する為に、親御さんが取る行動は、我が子への激しいプレッシャーです。

私から見れば、「真意がはっきりしない情報」でも、親御さんから見れば、十分な判断基準になりうる情報であると、みなされてしまうようです。

その「はっきりしない情報」をもとに、様々な取り組みが行われます。

今通っている塾を辞めて、他の塾に行ったり、様々な参考書に手を出してみたりします。

けれども、子供からしてみれば、一貫性のない指導は、非常に迷惑です。

ただでさえ、不安定な心理状態にある子供達の心は、これらの親御さんの行動によって、揺らいでしまう状況があります。

### ◇なぜ「不安」に陥るのか？◇

普通に考えれば、「不安」になるような情報なら聞かない方がましなのです。

確かに、「情報」を取り入れることは、重要な場合がありますが、それは、情報が正しい場合で、しかも、その情報を必要としているときに、その「話」を聞くのなら別に問題はないのです。

なぜ、わざわざ、価値が定まらない情報を集めるのでしょうか？

それは、少しでも「優位」に立つためです。

その「優位に立ちたい」気持ちが強ければ強いほど、どんな「ガセ」の情報でも、飛びついてしまうのです。また、「流行」に乗る事で、「遅れを取っていない」と思えるようです。

### ◇あなたの言動は「自慢」か？◇

中学受験では、子供同士の戦いと言うよりも、親の「見栄」「プライド」をかけた戦いに、子供が、巻き込まれるという形を取ります。

私立の中学に通わせようと言う親御さんは、当然のことながら、それなりの収入がある

事が推察されます。

また、そのような場合、いわゆる町の有力者である場合も多く、近所の目も非常に気になるものであるようです。

五年生の時点で、

「ウチの子は、難関中にA判定なんです」

このように周囲に豪語していた親御さんが、一年前には、その親御さん自身が「最低限」であると考えていた学校にしか合格しなかったと言う話は、よく耳にする種類の話です。

けれども、ここが面白いのですが、すぐさま、近所の子供達の合格状況を聞き、自分の子供よりも「イイ学校」への合格者がいなければ、全く問題なしのようなのです。

ある家庭教師は、「近所の子供さんのほうが、我が子よりもさらにひどかった」ために、その親御さんからのお咎めがなかったようです。

一年前には、親御さんにとって、「最低限」であった学校が、受験後の情報収集の結果、ご近所の噂に耐えうる「最高」で「難関」学校として披露されている事と思います。

つまり、皆さんが耳にする「情報」は、その程度のものである事を自覚すべきです。

受験後、私が親御さんに、最もやって頂きたい事柄があります。それは、子供さんへの賛辞なのですが、無論、それは、後回しです。

そのような我が子へのフォローはほどほどに、近所の皆さんの賛辞を自らが受ける為に、親御さんは、家を飛び出していくようです。

なぜ、試験の「結果」を、本人ではなく、親御さんが言う必要があるのでしょうか。

「本当に頑張ったのは誰ですか？」

親御さんは、自分を見る冷たい眼差しに気付くべきです。

## 転ばぬ先のツエ⑧

「手段を選ばない子」になっていないか？

### ◇中学受験者が学校で嫌われる理由◇

小学校における学級崩壊が叫ばれている世の中で、おそらく、その大きな問題となっているのは、中学受験をする子供の存在です。

街中にある学校ならば、半数以上、何らかの形で受験する場合もあるようです。

そんな中で、先ほどの「序列」の話ではありませんが、中学受験が一番優先される問題であり、学校での授業は軽視するというお子さんが多いと聞きます。

それは、私の時代にも、そのような考え方をする子供がいましたが、一方で、そのような行為を「おかしい」という子供がいました。

今の学級崩壊は、この「おかしい」を言う子供の不在がまねいている側面があると思います。そして、受験生は「受験」優先なので、クラスの状況など目に入らないのでしょうか。

### ◇私が小学校の先生に言われた言葉◇

私の親は、私が、小学校を卒業する時に、担任の先生から次のように言われたそうです。「あなたのお子さんが、ちゃんと授業を聞いてくれていたので、塾に行っている他の子供が、学校の授業を軽視する事がなかった」

私が小学校生活を送った時代は、ちょうど、塾の存在がクローズアップされ、全盛期の時代でした。それを示すものは、大手の塾などは、今の感覚では考えられない程の、高いお金を払って学んでいました。

そんな中、やはり、塾の宿題や課題を学校でやろうとする子供はいました。

親御さんも、「高いお金を払っている」方を優先する考え方に傾いていたのかもしれませんが。けれども、それで本当によいのでしょうか？「デキル」子供が、常識を逸脱する事は、他の子供に非常に大きな影響を与えます。ちょうど、芸能人や著名人の犯罪が、社会に与える影響と同じであるように感じます。

### ◇常識を逸脱するのは「上の子」◇

私は、塾に入ったのは当時でも非常に遅く、塾のスピードについていくのは大変でした。

当然、最初は点数を取れませんが、居残りは、日常的でした。その時、他の塾生に、馬鹿にされましたし、そう言われても仕方のない点数を、確かに取っていました。



けれども、数ヵ月後、私は、頭角をあらわし始めます。私の事を馬鹿にしてた子供も、私の存在を無視するわけにはいかない状況でした。そんな時、こんな質問をされました。

「どうして、成績があがったの？何かやっているの？」

そのお子さんは、私の勉強方法に、何か特別な「ヒミツ」があると思ったようです。

けれども、そんなヒミツはありません。私は、嫌々、塾に通っていましたし、中学受験は望んだものではありませんでした。私の性格として、「やるからには徹底してやる」面があり、勉強するようになったただけでした。

それは、他の子供さんと比べて「特別に」何かをするものではありませんでした。

私は、彼女と私でどうして短期間で差がついてしまったのか、すぐに分かりました。

それは、授業の聞き方です。

そのお子さんは、自分で解けた問題の解説は、全く聞こうとしませんでした。そして、黙っているのならまだ良かったのですが、授業中に話をしたりする事もしばしばでした。

彼女には、「他人の授業を邪魔する権利はない」と言う事が、理解できなかったようです。

私は、解けた問題も、もう一度復習になるため、きちんと先生の話聞いていました。

その時点で、彼女の二倍、その問題をやったことになります。同じように、学校でも、ちゃんと聞いていました。つまり、私は問題を三回やった事になるのです。

彼女は、確かに問題を解く事が「デキル」子供でした。けれども、他のお子さんに配慮し、また、話したい欲求を自重する力を備えるほど「デキル」子ではありませんでした。

#### ◇「躰」とは「他人に対する配慮」◇

子供さんが取る問題行動の多くは、初期の段階で注意し、改善を促せば、予防可能です。

「デキル我が子が、足を引っ張る子供を馬鹿にするのは、ある意味、仕方のないことだ」

「私の子供だけが、授業中に、先生を無視して、おしゃべりをしている訳ではない」

このような、親御さんの見方により、そのまま放置されている場合が多いです。

加えて、「人を尊重する」「他人の邪魔をしない」などは、勉強以前の問題であり、社会の中で、人間として身に付けておかねばならないレベルの事柄であります。その事実、是非、気が付いて頂ければと思います。

そして、我が子の「勉強」の進み具合だけを見ている親御さんにとっては「そんな事」であっても、結局は、「そんな事」が、子供のデキに大きな差を生むのです。

転ばぬ先のツエ⑨

「期待」する前に「信頼」せよ

◇我が子への「期待」の時代◇

幼児教育が花盛りの時代の中で、その加熱を後押ししているのが、おそらく、親御さんが抱く、我が子への「期待」です。

「一流水泳選手になるかもしれない」

「英語がペラペラで、国際人になれるかも」

挙げればきりがありませんが、「強い期待」なのか「淡い期待」なのかを区別しなければ、何らかの「期待」をもって、高いお金を払って、子供の教育にお金をかけている親御さんは多いと思います。

その「期待」は、子供さんがおなかの中にいる時から始まっているのですから、我が子が無事に生まれてきた後、様々な試行錯誤を子供に施すのは、無理もないでしょう。

ここで考えて頂きたい事は、親御さんの心に、「〇〇しないように」という考え方はありませんか？

つまり、以下のような事です。

「泳げない事にはならないように」

「英語で授業についていけない事にならないように」

「心配」が、尽きる事がない場合、子供の教育に対して、ある種の脅迫観念があるように思います。その影響は、子供にも及びます。

◇子供への「心配」には根拠があるか？◇

親御さんの心配のもとをたどってみると、親御さん自身の人生における、過去の失敗が挙げられることが多いように思います。

例えば、親御さんが、「子供の頃、泳げなかった」「英語が出来なくて苦労した」などです。

けれども、ここで、考えて頂きたいのは、あなたは、小さい頃からやりさえすれば、自分のような失敗はないと考えていませんか？

まるで、自分は「小さい頃からやらなかったから、失敗した」とでも言いたいようです。

それは、真実ですか？

例えば、水泳は、親であるあなたが、子供のときに、練習すべき時に練習しなかったから出来なかったのではありませんか？

同じように、英語は、英語を習う学年での、毎日の学習をおろそかにしたからこそ、全く分からなくなったのではないのでしょうか？

つまり、原因を履き違えているのです。

自分に、責任のない時期まで遡った「過去」に、原因を求める考え方は、有益でしょうか？

「責任のない」過去の糾弾は、果たして正しい原因究明しょうか？親御さんのその父母、その父母……。責任の転嫁は続き、一体、何を修正すればよいのか検討もつきません。

#### ◇「期待」する前にすべき事◇

はじめに、強調しておきたいことは、お子さんは、親御さんの人生を、生き直すために生まれてきたのではありません。

つまり、子供の人生は、親御さんの人生と因果関係はないのです。

そして、子供に合った方法で、頑張ってやりさえすれば、どの子も等しく、どんな目標も達成できると、私は信じています。

確かに、子供さんが生まれた環境によって、様々な重石があることは事実です。体が弱い、経済的に恵まれない、親の仲が悪く、家の中が安定しないなど、挙げばきりがありません。

それでも、「必ず」未来は開けると思います。

だからこそ、この世で、子供さんが最初に出会う存在である親御さん自身にも、この事柄を信じて頂きたいと思います。

親御さんが我が子を信じていさえすれば、子供はいつも、自分の「心」を満たす事ができますし、この充足感は、物質的なものでは絶対に得られないものです。

子供に「親から信じられている」という安心感を与えてあげること成功すれば、子供は全力で物事に取り組み、望んだ未来があるでしょう。親の心配は、本来無用なのです。

## 転ばぬ先のツエ⑩

「子供にはワカラナイ」は大きな間違い

### ◇あなたのお子さんは「賢い」◇

私が指導のために生徒さんの家に伺うと、しばしば、以下のような言葉が聞かれます。

「まだ、子供だから」

「あの子に、言っても分からない」

何を根拠にそのような判断をするのかが分かりませんが、私の経験から言えば、それは、親の思い込みに過ぎないと思います。

子供達は、自分の親には「ミエ」があることを知っていますし、そのせいで、「周囲の評価の高い」塾に通わせている事を知っています。そして、「あの子はバカだから」と親が自分を評価している事にも、気が付いています。

親に見放されている状況を、子供さん本人から聞くのです。私が、最も悲しい瞬間です。

私は、子供を産んだ事もなければ、自分自身の子供を育てた経験ありませんので、分からない事があれば、子供に、直接尋ねます。

そのような話の中で、子供達が、自分の親が、自らに対して下している判断と、その親の判断に対する思いを聞く機会もあります。

子供達が持つ、親への観察眼は、親が子供に向ける目よりも、非常に鋭く、そして正確である場合が多いです。

つまり、子供達は、身近な人が行う、自分に対する評価を感じ取る事ができるほど優秀であり、そしてその情報を活かして行動できるほど、大人なのです。

例えば、自分は「全く期待されていない」と判断すれば、親の自分への評価をさらに、下げるために、色々と悪さをするとする仕組みです。つまり、親への「あてつけ」です。

### ◇「聴く」というより「感じ取る」子供◇

確かに、子供と言うものは、親を正確に把握していますが、これは、普段の親の言動を見聞きした事により、親を把握している面もあるかもしれません。けれども、私が思うに、子供達は、親の中に流れる微妙な空気を感じ取っていると言った方が正しい気がします。

子供達の話の聞いていると、「理由」はあまり出てきません。一方で、「結論」は非常に明確に出しています。また結論は、結果的に正しい事が多いです。おそらく、見聞きした

事を順序良く並べた上で、判断したと言うよりは、総合的に見て、「掴んだ」感じなのです。

この事柄は、おそらく子供が生きるために必要な情報を「直感的に」取捨選択する技術があるのだと思います。

子供は、親がいないと生きていく事は非常に難しいです。そのことが関係して、親の動向を一瞬で捉える術が身についているのだと思います。子供達の真剣な視線に、親御さんは果たして気が付いているのでしょうか？

子供さんに、改めて、向き合ってみてください。我が子の成長と、その度合いの凄さが、実感できると思います。

賢者は歴史に学び

愚者は経験に学ぶ

皆さんにとって、この本が「歴史」になることを祈ります

すでに「経験」している場合

その「経験」が存分に生かされ、これからの財産となることを心から祈っています

もう転んだ人のコエ

第一声 大手の塾に入れたのに

◇「校舎、クラス」が左右する教師の質◇

中学受験において、最も多い不満がこの手の「大手に入れたのに」というものでしょう。

そもそも、中学受験では、「塾神話」が、非常に根強いです。

その神話とは、「塾に入らなければ合格しない」というものです。塾で結果が出せず、その後数ヶ月で、家庭教師のみで勉強し合格した生徒さんもいますし、また、一人で勉強して合格した人も、私は知っています。

塾が、過度に重要視される事により、塾に入れない場合や、塾を辞めることになった場合、中学校の「合否」とは全く関係ないにもかかわらず、ある種の、絶望感にもつながってしまうように思います。

また、塾の入塾試験突破が「賞賛」にも値する扱いを受けるため、「塾に入れること」＝「合格」と同じ感覚が親御さんの中にある気がします。塾が「大手」なら、より一層、皆さんの期待は、最高潮に達するようです。

けれども、水をさすようで恐縮ですが、毎年、大手の塾の採用欄には、「指導経験が無くても可」と書いてある事があります。その上、塾では、クラスの中で一人でも合格すれば、その塾の評価は「イイ塾」になります。

また、「大手」では、校舎が多い場合が多く、さらに、その中でクラスが細分化されています。はっきり申し上げますが、「イイ先生」は、トップクラスのそのまた特別クラスのような所でしか教えないのが普通です。

そして、どんな塾でも「イイ先生」は、一握りです。

◇なぜ、クラス分けをするか？◇

クラス分けは本当に意味があるのでしょうか？

これについては、子供達に利益がある様に訴える塾は多いですが、私が思うに、その利益はあまりないと言っても良いと思います。

それは、能力別に分ける弊害の方を、より大きく感じる事が経験上あるからです。

「クラス」は確実に差別意識を生んでいます。自分は、「上」のクラスだから・・・。

この思い込みが、足元を掬う結果になることもしばしばです。逆に、塾にとっては、力

がついていない事実を「大手のトップクラス」ということで、意識させない事ができます。

また、毎回のテストにより、クラス替えがありますが、これも、塾にとっては非常に都合がよいものです。自分が思っているよりも「低い」クラスに転入する場合、辞めていくお子さんもいます。これは、つまり、総受験者数が減ることを意味します。受験者が減った事での塾の利益と言え、合格率の上昇が考えられます。「数字」は非常に面白いです。

そして、クラス分けは、先生にとって、指導しやすいというメリットがあります。

◇どこをみて「塾」を選ぶか？◇

毎年、春先になると、どこの塾を選ぶかで、ご近所の話話は持ちきりです。けれども、必要な情報は全く流れていないように思います。

私がお勧めする塾はこんな塾です。

- ・生徒を大切に作る塾

そんな事は当たり前だろうと言う人は多いでしょう。けれども、特に中学受験では、このような理念は、無視される傾向にあります。

- ・教師にとってはじめから指導しやすい

→子供にはじめから備わっている能力が高い。基礎学力がついている。

- ・お金になる

→塾を何よりも優先する。競争心があり、負けず嫌いで点数にこだわる。

毎年、このような生徒さんを求めて熾烈な争いがあります。一方、それ以外の生徒さんは、脱落した際、受け皿が無いのが特徴です。

私がいう基準は、つまり、「脱落者を出さないように配慮し、なおかつ、そのために、実際に意欲的に取り組んでいる塾」です。

今現在、子供が脱落していなくても、安心はできません。授業についていける子供のみを指導する塾は、大まかに言って、子供へのプレッシャーが凄まじい場合が多いです。

それにより、授業が分かる子供でさえも、いつも不安に駆られてしまう状況があります。

「伸び悩む」一人に対し、指導する意志がなく、切捨てだけを行う塾は、「教育」に携わる場所としては、やはり疑問が残ります。

けれども、保護者の皆さんは、入塾当初は、自分の子供が脱落する事などは、夢にも考えていません。たとえ脱落しても、その経緯や、塾が、そのお子さんに、どのような対応をしてきたかについては、表沙汰にはなりません。



その理由は、当初の目論みが外れた親御さんにとって、「隠したい事実」であるからです。

また、指導力を欠く塾は、生徒の把握それ自体が出来ていない場合がありますので、その種の塾に惑わされる事が無いよう祈ります。

もう転んだ人のコエ

## 第二声 「高学歴」家庭教師を呼んだのに

### ◇あなたの周りの困った「家庭教師」◇

家庭教師は、以前と比べると、利用される方が増えてきたように思いますが、まだまだ、塾に比べると、認知度も利用者も少ないように思います。

その中で、「家庭教師」に対する評判を地に落とす行動を取る先生がいるのは、残念ながら事実です。（高学歴教師は、高額な場合多し）

私が実際に見聞きしたのは、

- ・医学部出身者の先生は、来てすぐに寝た

→雇った生徒さん本人に聞きました。

- ・「バカな子はやめてください」

→私が実際に自分の耳で聞きました。

- ・医学部を雇ったが、結果は出ず。

→半年以上雇ったみたいです。

数えてみればきりがありませんが、この種の問題は「自衛」できると私は考えています。

### ◇学歴と指導歴は同じではない◇

なぜ、高学歴の教師を雇って失敗したのでしょうか？それは、確かに、その教師に問題があったことは事実ですが、ご家庭にもその原因をまねく「考え方」もあったと思います。

高学歴の教師を希望されるご家庭では、その教師の「履歴」以外の情報を、積極的に求めようとはしない傾向があるように思います。

また、「問題を解く力」が高いことと、「問題を教える力」が高いことは、残念ながら一緒ではありません。

少しでも、教えた経験がある方は、実感している方も多いはずです。それは、自分のお子さんに教える際、自分では問題を解くことが出来るけれど、それを、子供に、説明する事は、非常に難しいという事実です。

つまり、根本的に使う能力が違うのです。

### ◇家庭教師の見抜き方◇

では、どのようにして家庭教師を選別すればよいのでしょうか？

第一に、全く指導歴が無い人を「受験生」でしかも時間が無い時に雇う場合は、そのリスクを納得した上でなさる事をお勧めします。

第二に、独自のプリントなどを製作するか否かです。これは、特にプロの教師に対して言える事ですが、「プロ」が学生と同じように、手ぶらで、何の授業プランもなくやってくるようでは、充実した授業は期待できません。

皆さんは、よく勘違いなさいますが、学校の授業と個別の授業は全く同じで、充実した授業は、その準備をする段階で決まるのです。

また、今「プロ家庭教師」が流行っていますが、「プロ」とは名ばかりで、他の仕事と掛け持ちで持っている方もおられますので、「準備」の点を追及するなら、授業に専念できる方を選ぶ事をお勧めします。

第三に、これが一番重要ですが、自分の学生時代に成績が下がった経験があり、なおかつ、成績を上げた経験がある方がお勧めです。その理由は、授業料が「高額」でも、指導を望まれる生徒さんは、基本的な能力に乏しい場合が多く、指導力を要します。故に、生徒さんの「分からない」に対して、ピンと来る先生がよいでしょう。そして、そのような先生なら、子供の個人的な悩みにも親身になってくれるでしょう。また、自分の経験をもとにアドバイスをくれるかもしれません。

そして、「褒めるだけ」の先生にも要注意です。「叱咤」と「激励」をお勧めいたします。

最後に、特に女の子に多いのですが、教師への「好き」「嫌い」が成績に大きく影響する場合があります。

特に、小中学生の思春期の女の子は、この「好き」「嫌い」で物事を決めてしまう傾向があります。

そのような場合、両親の勧めで、学歴や指導歴のある先生を選ぶのではなく、本人が気に入った先生を選択したほうが無難な場合が多いようです。

もう転んだ人のコエ

第三声 小さい頃から英才教育したのに

◇「知りたい」欲求のない子供◇

最近の様々な英才教育を受けたお子さんにとって、「学ぶ」＝「受験」を意味している印象を受けます。授業を聞き、自分で本を読む際、その原点である「知識を得る事」は、彼らにとって、「楽しさ」とは程遠いようです。

小さい頃から、受験で使うから、物の名前を覚えたり、「絵」や「字」を習ったりします。

生まれてすぐに、「受験」という検査機が、何個も備わるベルトコンベアにでも乗せられてしまったかのように、子供達は、ただ座って、親御さんが、色々と彼らに装着する「知識」を身に付けています。その装備は年々重量を増し、身動きが取れなくなっていくます。

そんな彼らは、本に書いてある事以外のことは、全く知りません。「受験の本」に書いてある事柄以外の他のものは、彼らの中で存在すらしていないようにも見えます。

◇「知識偏重」がなぜダメか？◇

たとえ、幼少期でも「知識としてあればよい」と言われる方もいるでしょう。

このような考えのもとに育てられたお子さんは、確かに「知識」はありますが、それぞれの知識が単発で、つながりがありません。また、頭の中でのつながりが無い事は、「整理」も出来なくなってしまうことを意味します。

なぜ、整理ができないかといえば、整理とは、同じ事柄の分類や、また違う事柄との対比により可能な作業であるからです。それらの概念が無ければ、整理は難しくなります。

そうすると、「混乱」に陥ってしまいます。混乱により、子供さんの意欲は低下します。

早い段階で、その状況に気がつけば、問題ありません。けれども、親御さんとしては、「知識」はあると認識しています。故に、実際に、諸問題が出てこない限り、子供の頭の中に気が付くことは、ほとんどありません。

◇子供は「興味」を持てば自然にやる◇

私は長女として誕生した際、幼少期、妹とは全く違う育てられ方をしました。

けれども、それは、ほんの一時期だけです。

私の親は、子供というものは、「教えない限り」何も覚えないと思っていたようです。

けれども、私を見るにつれて、子供は、興味さえ持てば、「勝手に」やるようになると言う事に気が付いたそうです。

それ以降、私達は、家の中で「勉強しろ」とは一切言われた事はありません。

また、考えてみれば、子供ばかりにかまっていられない私の親にとって（親二人を介護していた）、子供が「勝手」にやってくれることは、非常に都合がよいことでした。

#### ◇自立できた子供が成長する◇

子供は親が、「強制」しないとダメだと考えていらっしゃる方は、中学受験希望のご家庭には、非常に多いでしょう。皆さんの、熱意は認めますが、私立幼稚園にはじまり、私立小学校へ上がって、念願の私立中学に上げられるお子さんは、私の印象では、少ないです。なぜなら、「存分に」遊んできて、「勝手に」勉強するように育てられた子供達に、「勢い」の上でも、また「自己管理」の意味でも成長に差が見られるようになる為です。

本当にスゴイ力とは、私は、「一人でできること」であると思っています。

ですから、私の指導の終着点は、まさに、その点につきます。けれども、「英才教育」を、親がつきっきりでしてきたお子さんには、この終着点への道のりは、険しいものとなります。それは、「一人で」やった事がない為です。

また、「一人でやる」の概念すら持ち合わせておられない場合も多いです。

是非、親御さんには、子供を「黙って見守る」技術も身に付けて頂きたいと思います。  
もう転んだ人のコエ

第四声 子供は「頑張っている」のに

#### ◇「頑張る」という言葉の不思議な使い道◇

私が中学受験の子供さんを教えるようになって、とても驚いた事があります。

それは、「頑張る」もしくは、「頑張った」と言う言葉の使い方です。

中学受験の準備をする中で、行き詰まってしまったお子さんは、様々な場面で、この言葉を多用します。

なぜ、この言葉を、多く使う必要があるのでしょうか？それは、子供達が、親の期待する結果を出せていない事に要因があるようです。

中学受験を希望される親御さんの多くは、子供達の毎日の成果であると考えている「点数」を把握しておられる場合が多いです。

つまり、「点数」については、毎日チェックされ、そして、その「点数」そのものについては、言い訳の仕様がありません。数字と言うものは、良い意味でも悪い意味でも、はっきりとしたものが出る指標であるからです。

その時に、子供さんが口にするのが、  
「頑張った！」

と言う言葉です。

点数を取れなければ、通常は、長い「説教」になるところでしょう。その時、この言葉を使われると、さすがに、親御さんも、「頑張った」と訴える我が子を、非難しにくいのか、怒る声のトーンも下がってしまうようです。

「頑張ったんなら、仕方がないか・・・」

おそらく、このように思ってしまう方が多いでしょう。

この言葉は、親御さんに文句を言わせないために、伸び悩む子供さんが使う「印籠」のように使われているようです。

#### ◇点数を取れないとき、どうするか？◇

本当に頑張った時に、この言葉が出る事は、何の問題ありません。けれども、この言葉を、中学受験で伸び悩むお子さんが使う時、その意味は慎重に捉えるべきです。

それは、いわゆる、中学受験生ではない小学生や、他の学年のお子さんを指導した経験がある私にとって、この種の「頑張った」を他で聞くことは、まずありません。

最も大きく違うのは、望んだ結果（望んだ点数）を得られない場合です。

その場合、考え込んで無口になるか、弱音を吐くか、自分がやった勉強方法の再点検をすることが多いと思います。果たして自分は、本当に頑張ったのかを自問自答します。

つまり、点数を取る事ができないという「現状把握」が出来ているからです。そして同時に、「これから」どうすれば良いかを考えます。

一方で、中学受験のお子さんは、「自分が書いた答案」に対し、自分には責任が無い事を、最初に、明確にしておきたいようです。そして、間違い直しを嫌がるのも特徴です。

現状把握をせず、「これからどうすればよいか」を考えなければどうなると思いますか？

そう、また「同じ」失敗をするだけです。

この「同じ失敗」を繰り返す事こそ、中学受験で躓いたお子さんの最大の特徴です。

点数を取る事ができなかったのには、「理由」があるはずで、そして、通常は、次に、

どうすればよいのかを考えるはずですが、それらが一切なく、「自分は頑張った！」という自己暗示で、過去とは決別できるようです。

過去を振り返る必要はないかもしれませんが、過去を「生かす」ことができるかどうか、同じ失敗を繰り返さない為の、明確な分岐点のようです。

また、「頑張る」を履き違えている子供の判断基準があります。結果が悪い時、「悔しい」感じがしない事です。「悔しさ」は、真に「頑張った」人にしか味わえないもののようです。

その点を、子供さんと話し合ってみる事をお勧めします。話し合いとは、一方的に話し、「怒る」事ではありません。お間違いなく。

もう転んだ人のコエ

#### 第五声 勉強に専念させたのに

##### ◇スケジュールが埋まっている子供◇

最近の子供さんが、小さい頃から、習い事などで忙しい事は、有名な話です。

そして、その段階から、中学受験の塾に通い始める頃になると、その忙しさは、倍増します。

近年は、小学校の低学年から塾に通うお子さんも増えており、放課後のスケジュールに空きがありません。

塾から家に帰って来ると、自由な時間があるかと思いきや、「ご飯を食べる時間」「お風呂に入る時間」「勉強する時間」と厳密に決められており、そのスケジュールのとおり動く事を、親御さんから求められます。

私が実際に経験した事です、受験が終わった後、私はまるで「浦島太郎」のようでした。皆が、学校で話している事が全くわからなかったからです。

つまり、「自分の時間」がほとんどありませんでした。当時の私は、そのような時間は、すべて睡眠に充てていました。そうしなければ、体がもたないからです。

想像してみてください。

- ・小学生の子供の目が、痙攣している事を。
- ・小学生が、肩こりや腰痛で苦しむ事を。
- ・小学生が、結果のみ要求され続ける事を。
- ・小学生が、プレッシャーで眠れない事を。
- ・小学生の余暇の唯一の楽しみが「寝る事」。

これらは、実際に、私が体験した事でもあります、私の場合は、一年半ほどでした。（まじめにやったのは、一年ほど）それでも、大変だったのに、現代の子供は、これを、最大で六年間も続けるのです。

実際経験した私には、考えられない事です。

##### ◇スケジュール管理は子供自身で◇

成績が伸び悩む子供さんは、自己管理が出来ていない場合が、非常に多いです。

つまり、「怒られる」「やれ、といわれる」場合にのみ、その「義務」を果たそうとしま



す。本来、勉強は、「自主的」にやるもので、決して「義務」であってはならないと思います。けれども、私が指導するタイプのお子さんの家では、この傾向は顕著です。

この状態では、親御さんは、始終、子供の管理に奔走する必要が生まれてしまいます。

今の状況を一番把握しているのは誰でしょうか？他ならぬ子供さん自身でなければならぬのです。そして、状況を把握したのなら、「行動」しなければなりません。

この一連の作業をできるようになることと、成績が伸び始める事は、経験上、無関係ではない気がします。

また、過密なスケジュールは、必ずと言ってよいほど、失敗します。故に、一週間に、一日や二日はリフレッシュの日を置いた方がよいでしょう。つまり、「予定が0の日」です。

また、〇ページやるというものは、大体、うまく行きません。それは、〇ページやら無い事には、目標を達成できない為です。

伸び悩んでいるお子さんは、大抵の場合、全ての勉強に時間がかかる場合が多く、その〇ページという課題をこなすだけで、疲れきってしまうかもしれません。

それならば、「一時間算数をやる」という計画の方が、結構うまく行くかもしれません。ちなみに、私の計画の立て方は後者でした。よって、私は、あらゆる作業が、他の人に比べて非常に早いです。(丁寧ではないですが)

「一時間でどれだけできるか？」

この取り組みを、自分で楽しいと思っていたからです。勿論、一時間たったら、さっさと止めます。

長時間やるのが良いと思っている皆さん、時間を区切ってやってみる事をお勧めします。

そして、今日の分が、終わったら、さっさと遊びに行ってください。

#### ◇「遊ぶ」効用◇

近年、研究が進められていることで、子供達の脳の発達、子供達の「体の発達」と非常に重要な関連性があることがわかってきました。

つまり、「よく遊び、よく学べ」とは、昔の人は良く言ったもので、その二つの実践こそが、真の成長の近道であると言う事です。

子供の頃に、遊ぶと言う事は、それ以外にも非常に重要な意味があると思います。

その最大の収穫は、「ルール」を身につけるということであると私は考えています。

最近の子供達の特徴として、たまに時間があって集まっても、皆がバラバラな遊びをする事が多いそうです。

私の頃には、皆が集まってでしか出来ない遊び（ドッジボール、鬼ごっこ、基地を作る）が主流で、しかもそれは、家に帰ることも忘れるくらいに、非常に楽しいものでした。

これらの、大勢でやる遊びの中で、重要なのが、「ルール」に従う事です。自分達で、特別なルールを設けたりしながら、「自分達だけのルール」で遊ぶ事が、最大の楽しみでした。

このルールを決める際には、皆で話し合いますし、また、反対する人に対しては、説得する人も出てきます。また、反対した人の望みを、次の機会には叶える事もあるでしょう。

そういう風に、人間関係をつないでいく事が、非常に重要な意味を持つように思います。

あなたのお子さんは、自分さえよければそれでよいという考え方を持っていませんか？  
「個性が生かされているのだから・・・」

確かにその面も否定は出来ませんが、そのように協調性が無い子供は、将来、窮地に陥った時、誰も助けてはくれません。

また、家の中でのルールも重要です。お子さんは、学校から帰宅すると自分の部屋が綺麗になる、と考えていませんか？つまり、「自分はやらなくても、誰かがやってくれる」という甘えを持った子供です。子供の人生が、親が、手出しできる事ばかりなら、問題はありません。けれども、我が子の部屋同様、親が解決できる事は、外の世界ではわずかです。

#### ◇大きくなっても生かされる子供時代体験◇

私が働くようになって驚いた事は、人の世話やサポートについて、非常に不器用である上に、時間さえ守れない人がいることです。

おそらく、小さい頃から、ただ「賢い」だけで、一切を免除され、何の役割も果たしてこなかったのでしょう。

大きくなっても、一定のルールに従う事ができなければ、一時期、地位のある職についても、その先には、間違いなく挫折が待っています。そして、他人を支えない人を助けてくれるほど、世の中は甘くありません。

あなたの、お子さんの「将来」に関わらず、小さい頃から、遊びの中で、ルールや、人間関係を学んでいく事は、後の人生の大きな財産になると思います。

もう転んだ人のコエ

第六声 両親の学歴は高いのに

#### ◇窮屈な家◇

親御さんが、学生時代に、広い知識や教養を身につけたことは、それ自体は、非常に望ましい事で、非難の余地は全くありません。

けれども、このとき、考えて頂きたい事は、その努力は、果たして、自分の意志であったか否かです。

おそらく、「自分の意志」で勉強するタイプであった親御さんの場合、子供達に、「強制」をする事はないでしょう。それは、「強制」されても無駄である事を知っているからです。

一方で、親御さんの強い希望により、努力せざるを得ない環境にいた親御さんは、様子が違うかもしれません。

まずはじめに、親が、子供の勉強について、口を出すことは当然であると思っておられると思いますし、実際、そのようになさるでしょう。

そして、学業での成功のために、他の事柄については、あらゆる「管理」をするかもしれません。

また、「自分の子供は賢くて当然」と、どこかで思ってしまうことで、我が子の頑張りに対して、あまり「褒める」事がないかもしれません。子供にとって、頑張っても、労いの言葉さえない場合、自分のやっている事は、「褒められるに値しない」と判断して、どんなに素晴らしい成績をとっても、自分に自信をもてない状況が生まれてしまいます。

「親と同じ成績かそれ以上」でない限り、我が子であるとさえ、認めてくれない親御さんもいるかもしれません。

何のために、勉強しているのでしょうか。

子供は、自分のために勉強しているのだから、褒める必要は無いのでしょうか？

そんな、ストイックで、ハリの無い生活は子供には向かないと思います。

#### ◇親の逃げ口上を冷めた目で見える子供◇

高学歴な親御さんは、頭の回転も良い場合も多いでしょう。

そんな場合、子供の訴えに対して、子供からの反論が全く出来ないほどの「弁」を述べるかもしれません。そのようなご家庭では、そのうち、子供は、親と話しても無駄だと感じ、親子間の会話がなくなるでしょう。

あるいは、得意の理論を備えた「言葉」で子供を操ろうとするかもしれません。

「勉強できたら、将来が約束されるのよ」

「勉強できる人間だけが勝ち残るのよ」

色々ありますが、この種の言葉は、励ましではなく、子供にとっては「脅し」以外の何物ではないという事を、自覚してください。

また、勉強から離れて時間が経っていると、多くの場合、その「能力」は、「過去の遺物」になっています。子供に何かを尋ねられても、答えられない場合が多いようです。

そんな時、親御さんが使う奥の手が、「お母さん（お父さん）は忙しい」というものです。

子供は、遊ぶ時間や、寝る時間を削ってまで勉強している中で、親御さんには、ショッピングに行く時間や、趣味の時間、そして、飲みに行ったり、テレビの時間もあります。

子供が人生最大の「危機」に陥っているのに、なぜ、「時間」がないのでしょうか？

我が子の一大事よりも重要な事はなどあるのでしょうか？

ここで、親御さんが積極的に、手を貸さなければ、子供は親に期待しなくなるでしょう。親は、経済的に養ってもらうだけの存在になりかねません。子供の勉強にさえ手を貸す事が出来ない、親御さんの「高学歴」の事実は、子供にとって、意味があるのでしょうか？

#### ◇子供の心に残るもの◇

はっきり申し上げますが、子供さんは、自分の親が、既に、「勉強」の能力がないということを知っています。

私が訪問する前に、親御さんが、既に中学受験の問題と格闘した後であることは多いです。その時、子供は、普段、言葉だけで子供を制する親が、「小学生の問題」に、お手上げ状態である様子をよく見えています。

問題を解く事が、デキナイのなら、そのように言いましょう。親が解けない問題に取り組む子供に、「すごいね！」と言うべきです。

親御さんの数々の素晴らしい過去の「履歴」も、ほんの数経つと、全く残らないものである事を自覚するのは、決して、ムダではないと思います。そのような事を踏まえた上で、子供達が、一生の宝にできる親御さんの姿を見せてあげてください。

「昔は、お母さん（お父さん）は賢かった」

これらの言葉以上に、子供には、今問題を解いてくれる親御さんの姿こそが、大切な思い出として記憶に一生残るでしょう。受験を越え、言い逃れせず、共に取り組む事姿勢が、

子供に尊敬される、唯一で最良の手段です。

もう転んだ人のコエ

第七声 学校ではすべて「よい」なのに

◇世の中は広い◇

中学受験に取り組む決心をされる家の中で、  
塾に入る前の、学校での成績が、平均以下ということは、ほとんどないでしょう。つまり、  
多くの子供達が、「学校」では、「良い」成績を修めているわけです。

けれども、塾に入ると、なぜか、平均以上の点数や、高い順位をキープできません。そこで、親子の苦悩が始まるわけです。

考えて頂きたいのは、「平均」と言う概念は、その集合体の母体が変われば、全く違ったものを意味すると言う事です。

塾には、色々な町から子供達が集まります。

もしも、お子さんが通っている塾が、大手の塾ならなおさらです。皆さん、スタートの段階で既に、「入塾テスト」に耐え得る知識を身につけて、同じ学び舎で勉強しています。

「入塾テスト」が存在する事は、重要な意味を持ちます。つまり、このテストを通過できなかった子供達の排除を意味するからです。

勉強の能力において、粒がそろった上で、塾でのクラスを編成するわけですから、そのクラスメイトは、当然のことながら、学校のクラスとは全く違うわけです。

そして、塾でいい成績を取り、塾内の順位が良くても、それで安心は出来ません。今度は、県内での模試が開催されます。そこで、また順位が変わってくるわけです。また、全国区の中学校には、「全国」から受験生が集まる事も忘れてはいけません。

◇刻々と変化する親からの「評価」◇

中学受験で、躓くお子さんの状況は、ちょうど、日本では無敵だったスポーツ選手が、海外の大会で惨敗してしまう事に似ています。つまり、競争相手が変わると、その中における、自分の能力の順位や、評価が、全く違ってくるという事です。

重要な事は、判断する基準自体が、変化したと言う点です。本人に落ち度はありません。スポーツ選手などは、マスコミの激しい非難にあいます。ついこの間まで、「絶賛」されていた自分への評価が、「地に落ちる」瞬間です。

これが、子供達だったらどうでしょうか？

昨日まで、親からは、「賞賛」しか浴びた事がなかったのに、急に手のひらを返したように、親から一方的に「罵倒」されるわけです。

この際の、子供の精神的苦痛は計り知れません。これまで、親御さんの言うとおりにしてきたお子さんであれば、なおさら、それを「理不尽」に感じる事でしょう。また、「賞賛」以外の経験が乏しいため、親御さんが思っている以上に、ダメージはあとを引きずります。

あなたのお子さんは、「誰かと比べて」賢いのですか？そんな不確かな基準を設ける利点はどこにあるのでしょうか？

#### ◇条件に左右されない評価の重要性◇

最近の社会の風潮としては、「ランキング」というものが非常に流行っているように思います。

例えば、視聴率に始まって、人気のお店、人気の塾、そして、人気の学校のランキングが、あらゆる範囲で繰り広げられています。

そのランキングで重要なのは、「ランキングの基準つまり条件は何か？」ということです。

例えば、お店などを例にあげると、支持してくれる人数的には少ないけれど、常連客が非常に多く、熱烈なファンを抱えているお店もあるでしょう。地域限定でのランキングでは、いつもトップかもしれません。そして、その評価に値する以上の働きをそのお店は、その地域で、成し遂げているかもしれないのです。お店は、ランキングに関わらず、今までどおり繁盛するでしょう。

このように、ランキングは、一側面に過ぎません。表から見て並べやすい一基準で、算出された順位に過ぎないのです。

では、皆さんの子供はどうでしょうか？

「勉強の順位」で子供を判断していませんか？そして、「勉強が出来る子が好き」もしくは、「一番になる子がいい」と子供達に言っていませんか？

それは、例えば、「お父さんはお金をくれるから好き」「お母さんは、いないと家事が困るから好き」と言うのと同じことです。一側面しか評価されない事は、残念な事です。

あなたの愛情に、「条件」を設ける必要はありますか？その必要が無い事を祈ります。

一生を通じて、「条件」に左右されない、「無条件の愛情」を子供達にかけてやって下さい。

もしも、「条件のある」愛情を子供達に行使した場合、親に対する子どもの評価も、条

件によって変化するでしょう。「お金をくれるお父さんが、その能力がなくなった」「お母さんが入院した」子供にとって、条件が変わった時は、皆さんの親子関係が問われる時です。



もう転んだ人のコエ

第八声 「最高水準」問題集をやったのに

#### ◇机に並ぶ問題集の山◇

私が行くお家では、「子供が勉強しない」という事が話題になることが多いです。

そして、伸び悩むお子さんの家には、すでに結果を残しているお子さんに比べて、問題集の数だけは、倍以上あります。

その問題集を見てみると、白紙か、もしくは、数ページやっただけで、あとは全く手をつけていない場合が多いです。

私はよく本屋に行きますが（新しい問題集などをチェックしたりします。勿論、買わせて頂く事もあります）そこで、見かけるのは、ほとんど親御さんです。子供自身が問題集を選ぶ姿は、ほとんど見ません。

私は、子供によってやる問題集をかえていますが、問題集の選択の基準として、

「どういう問題集が好み？」

と子供達に聞くと、彼らは、一瞬、何を聞かれたのか分からない様子です。

つまり、子供にとって、問題集は、親御さんが「勝手に」選んでくるもので、彼らの好みや、意志が反映された事がないからです。

「大きい問題集が好き？色がたくさん入ったほうが好き？絵が沢山あった方がいい？」

こんな要望を聞いて、小学生の場合は、私が問題集を買う事になります。

そして、自分の好みが反映された問題集は、これまでとは、一味違ったものになるようです。使用方法も、この時初めて学ぶようです。

一方で、大多数の親御さんは、問題集を買い与えた時点で、その義務を終了したと、思っておられるようです。その中途半端な行為こそが、「白紙の問題集」を生む原因です。

#### ◇親御さんが好む問題集◇

正直に申し上げまして、私が教える生徒さんは、「勉強嫌い」が多いです。それゆえに、私が選ぶ問題集は、基礎が丁寧に、まとめてあり、ページも少ないものが多いです。

けれども、親御さんが選ぶ問題集は、百八十度違います。中学受験を希望される親御さんが、最も好きなのが、「最高水準」「難関校対策」などの文字が入った難しそうな品です。

その商品を見せてもらう事がありますが、おそらく、あまりやる気はしないでしょう。

その理由は、問題集というものは、七割位は自分で解くことができ、残りの三割を学んでいく方がちょうどよいからです。

全ての問題が難しく、解説を読む必要があるものは、特に伸び悩んでいる生徒さんには不向きです。それは、ただでさえ、「デキル」感覚に乏しい状況で、その上、自分のレベルを超えた問題集と格闘する事は、何の突破口にもならないからです。

けれども、やはりどうしても、「最高水準」を買いたい場合、子供の机のインテリアになる可能性が高いことを、覚悟してください。

#### ◇基礎からやることの重要性◇

たとえ、点数があまり極端に低くなくとも、伸び悩んでいる状況が長く続くようなら、基礎を、もう一度固める事をお勧めします。

これは、私自身が、ご家庭でよく訴えることですが、「基礎」とは、「簡単」の意味ではなく、「重要」の意味であると思います。

何年も塾に通って、結果が出せないお子さんでも、基礎の徹底により、何とか、ボーダーライン前後ぐらいには伸びる事があります。(成長は「不可能」ではないが「超大変」)

本人からしてみれば、短期間で、その成果が出た事が信じられないようです。

基礎をやる事における、別の効用は、問題同士のつながりが見えるようになる点です。

算数で、「時計算、流水算、旅人算、ニュートン算」色々ありますが、これらは、大まかに言って同じ考え方が基礎にあるものです。

その「考え方」が分かりさえすれば、生徒さんは自分から、「あの問題と、同じ考え方だ！」と急に叫んで、嬉しそうに説明してくれるのです。

私が短期間で、しかも、塾とは比べ物にならないくらいに少ない問題数で、生徒さんを指導できる理由がここにあります。

つまり、生徒さんの頭の中に「つながり」を作っていくという点で大きく違うのです。

結局は、同じ事が尋ねられている事さえ分かれば、あとは、割と簡単にいくでしょう。

#### ◇「量」ではなく「質」を向上させる事◇

今の中学受験を指導している塾の常識は、宿題の多さです。それが意味するものは、とにかく、「量」をやらせるという事です。

この方法には、二つの欠点があります。

一つは、あまり理解できないまま、「量」をやっても、結局は、力がつかない事です。

そしてもう一つは、塾から出される宿題を「義務」としてこなす時間に追われて、自分の学習ができない事です。

これは、例えば、自分は、時計算を重点的にやりたいのに、塾からは、面積の問題を多く解くように言われた場合などです。面積の問題が得意ならば、より能率が悪いです。

- ・今日の分を、自分でまとめてみようかな？
- ・迷ってしまう所を表にしてみようかな？

このように思った時に、自由に使える時間が全く無いのが、今の塾のあり方です。

では、なぜ塾では、ここまで多くの宿題が出されるのでしょうか？その根底にあるのが、おそらく、子供達が「自主的に」やるとは全く思っていないということでしょう。「宿題」として、親御さんにも、分かるように出さなければ、子供は勉強しないと思っているためです。そんな環境に育った子供さんは、親や塾の目が届かなくなれば、サボるだけです。

では、どうすればよいのでしょうか？

「量」ではなく、「質」を向上させる事が何よりも大切です。それにより、子供に余裕ができ、追い詰められる子が減るはずです。

私が持った生徒さんは、よくこう言います。

「やっている量や、勉強時間が減ったのに、どういうわけか、成績が上がった」

この種の反響は、「質」の向上の成果であると思います。追い詰められもせず、「量」をこなすために、体力を消耗してしまうでもなく、もっと、余裕を持って子供達が勉強可能な環境の整備と、考えの普及が、待ち望まれます。

そして、適切な、自由時間がある環境は、決して、学力低下に繋がるわけではなく、むしろ、さらなる「意欲」につながるというのが、私の経験から言えることです。

「親に怒られなくなった」

親御さん自身も余裕が不可欠だと思います。

「子供が、休むと、皆に置いていかれる」この考え方を捨てて下さい。休養はプラスです。

また、子供を叱る時には、夫婦で「怒り役」と「フォロー役」の分担をして下さい。夫婦間の意思統一は重要ですが、逃げ道のない叱責は、子供にダメージを与えるだけです。

もう転んだ人のコエ

第九声 「分からない」と言わないのに

#### ◇挨拶重視の死角◇

私が最初に生徒さんと対面する時、気を引き締める瞬間があります。

それは、最初の「挨拶」のときです。

第一印象が重要とか、子供さんをよく見たいからなどという理由ではありません。

私は、「大人びた」挨拶をする子供さんを、非常に警戒しているのです。

学校や、家の中でも、頻繁に「挨拶は重要」という事を指導されているのでしょう。敬語で、本当に完璧な挨拶をしてくれます。この行為のどこが悪いのか？と疑問を持つ方は多いでしょう。

確かに、挨拶そのものには、問題は無いのです。けれども、彼らの、挨拶の「大人びた」感じは、中学受験以外の小学生にはないものです。

彼らの「大人びた」感じはどこからくるのでしょうか。

それは、親御さんによる厳しい躾が背後にはあると、私は、考えています。そして、親御さんの求める挨拶のレベルが、「小学生」のレベルを超えていることから考えても、その家における、親御さんの「理想」や「子供達への扱い方」そして「子供へ及ぼす力」を反映しているように、私は感じています。

そのような理由を踏まえて、私は「挨拶」を、その家での試金石であると捉えています。

この種の挨拶は、私が、その家の親子関係について、果たす役割の大きさを示すように思います。これは、経験上言えることです。

#### ◇挨拶以上に重要な言葉◇

「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」このような言葉が、一般に挨拶と呼ばれるものでしょう。

そして、中学受験のお子さんは、成績に関係なく、どのお子さんも、この種の挨拶は、ほぼ「完璧に」できます。

けれども、私が思うに、人間の間で交わされる言葉の中には、これらの言葉以上に重要なものがあると思います。

・「ありがとう」

・「ごめんなさい」

この二つが、人間関係を円滑にする上で不可欠であると思います。

これらの言葉に乏しいお子さんの特徴は、自分の状況についての言葉が足りない事です。

例えば、机から落ちたものを、私が拾ってあげても、何もいいません。

また、宿題をしていなくても、言い訳だけで、「ごめんなさい」の一言がありません。

断っておきますが、これらの生徒さんは、全て、あの大人びた「挨拶」をしていた人たちです。

もう一つ特筆すべきなのは、このような言葉は、挨拶とは違い、親御さんがいない中で使う言葉である点です。また、「礼儀」ではなく、「人間性」を問われる言葉でもあります。

さらに、この種の生徒さんが、授業中言わない言葉の筆頭が、「分かりません」です。

この言葉を言わなければ、学校や塾で、自分の能力を伸ばす事は不可能であったでしょう。あなたのお子さんに、いつまでたっても力がつかない理由がそこにあると思います。

子供にとって、幸いな事に、家庭教師という先生は、通常、一対一で教えてくれると言う状況にあります。よって、生徒さんの「習熟度」に気がつきやすい事は確かです。

けれども、いつもいつも「他人」が気付いてくれる事を待っていても良いのでしょうか？  
また、「気付いてくれない」「助けてくれない」他人は、「悪い人」なののでしょうか？

つまり、親御さんは、子供達に対し、この種の自分にとって、「負の状況」を周りに伝える事の重要性を理解させていますか？

必要な時に、自ら声を上げなければ、自分の利益を守っていく事は、不可能です。

また、私が、担当した生徒さんで、問題を解かせた時、「できました」が言えないお子さんは結構います。

こんな生徒さんも、やはり、親御さんが期待し、そして熱心に指導しているであろう「挨拶」はこなす事ができるお子さんです。

毎回、鉛筆を落として、私に知らせようとするお子さんも過去にいました。

笑い話にもなりません、このようなお子さんは、珍しいものではありません。

自分の状況や気持ちをきちんと表現できなければ、相手にそれが伝わらず、自分がストレスを抱えた上、相手に誤解を与える結果になってしまうことは、間違いありません。

そして、自分の状況を訴える子供達の言葉を、どれだけ時間をかけても聞こうとする親御さんの姿勢が重要です。つまり、「挨拶」以外の能力に乏しいお子さんには、一番必要な事であると思います。

もう転んだ人のコエ

第十声 子供は中学受験を納得したのに

◇はじめて知る「受験」の意味◇

中学受験というものが、大多数のお子さんの人生において、「はじめて」の「受験」を意味する事が多いでしょう。

おそらく、その時点で親子間に生じる、大きな違いは、その「受験」という言葉の意味の捉え方です。

私は、当時自分が受ける学校について、名前もあまり分かっていませんでしたし、塾に通った事が無かった私は、「塾」がどれだけ大変なものなのかを、理解していませんでした。

私の判断の基準は、当然のことながら「学校」にあり、「あれならできるかな」と、ぼんやりと考えていたほどです。

そして、高校受験で、初めての受験生となった場合と小学生の共通点は、試験が近づいても、危機感がなく、「落ちる」という感覚が欠如している点です。小学生のお子さんより大きい一五歳のお子さんでもこんな調子です。

幸い、私は、そろばんを習っていて、級を取る為に「試験」を受けなければなりません。ですから、「受験」以前に、「合格」「不合格」を体験した事がありましたので、その点については、一様は、自分なりに理解していました。

けれども、「合格」「不合格」がでる経験をした事がない生徒さんの場合、受験の大きな要素である「合否」は、あまり理解できていないと言っても良いと思います。

その心中にあるのは、「頑張ったんだから受かるだろう」という思いだけです。

そこで大きな誤算が生まれます。

「皆頑張っている」中で、上回る成績を取る事の難しさです。この点については、学校では味わえない事柄の一つかもしれません。

また、親御さんにとって、中学受験の流れに乗ることは、「エリートへの道」を意味するかもしれませんが、子供にとっては、「違う中学校に行くんだな」という認識くらいです。

はじめは、私立中学に通うことを承諾していても、公立小学校に通っている子供は、「小学校の友だちと同じ学校へ行けない」という事実に至っては、気が付いていないようです。

小さい頃から築き上げた友人関係の、ある種の「断絶」も中学受験の大きなテーマです。

◇うまく行かない時に子供が思う事◇

塾に行くようになると、その中で結果を出すことを要求されます。皆が、頑張っている中で、望んだ結果が出ない時もあります。

受験を割と簡単に捉えていたお子さんには、より一層、不満が募る毎日が続くでしょう。

そうすると、なぜ、自分は、「別に、しなくてもよい中学受験をしたのか」を考えます。

思い浮かぶ事は、

「今受験すれば、中学高校六年間が楽よ」

「きれいな校舎で勉強できるのよ」

という、親から聞かされ続けた言葉です。

そもそも、子供さんには、中学受験をする上でのメリットだけではなく、デメリットについての説明がなされたのでしょうか？

そして、その子供さんにとって不利な点を、きちんと説明していた親御さんは、はたして何人いるのでしょうか？

悔いの無い選択をする際に、一番重要なのが、幅広い情報の収集と、その「偏りのない」情報を色々と見極めた上での、「選択」です。

中学受験の利点以外を隠した情報は、「偏りが無い」情報であると言えるでしょうか。そして、そのような情報に基づく判断は、「正常な」ものであるといえるでしょうか。

子供が、受験が近づいていう言葉としては、

「親に強制された」

「親に騙された」

という悲しい訴えに、結果的になります。この訴えを、親御さんは非難できる立場にいるのでしょうか？私には疑問です。

◇辞めさせる勇気も持つ◇

うまく行かなくなった時、一度、休ませたり、辞めさせたりして、子供の負担要素を除く事が、有効である場合があります。

私のところに来る生徒さんは、受験目前で、結果が出せず、明らかにノイローゼ状態です。

けれども、親御さんは、より一層「たくさん」やらないとダメだと考えておられるようです。勿論、子供さんは、これ以上「やらされる」事に納得しているはずがありません。

この際、私が「企業所属」家庭教師ならば、依頼を拒否する事が、難しい事も事実です。

ただし、子供の同意がない、子供に負担をかけるだけの「授業」はやってもムダです。  
つぶれそうな背中が、本当にポッキリと折れてしまってからでは遅いと思います。

私がこの状況の中でする事は、しばらく、子供さんを休ませるように勧めることです。

全く休みが無い生徒さんにとって、体験した事がない時間となるでしょう。

たとえ塾を辞めても、家庭教師や、個別指導の塾があります。そして、「中学受験の塾」  
だけが、子供を伸ばす場所ではないのです。

準備が整っていないのに「山」に挑戦する事は無謀ですし、危険すぎます。一度引き返  
し、体勢を整え、再び挑む事もできるのです。

冷静になって考えてみた時、「選択肢」と言うものは、案外、沢山あるものです。

もしも、選択肢が一つしかないと思っておられる親御さんがいたならば、今、あなたの  
頭の中は、「正常な判断ができる状態ではない」と思っても頂いても良いと思います。

そんな時には、親や、責任ある立場にいる人以外の第三者に、話をしてみてください。  
友人や、自分の親御さん、誰でも結構です。

高校、大学、いくらでも、挽回は十分可能なのです。中学受験だけが道ではありません。

その「視点」と「余裕」こそが、重要です。

問題が泥沼化する前に、親御さん自身が、積  
極的に、周囲の「助け」を求めてください。



おわりに

いかがでしたでしょうか？

今一つ、理解できない事柄が多かったでしょうか？それとも、腹立たしい程に、今の状況に符合する点が、多かったでしょうか？

どちらにしても、私が望む事は、子供達の状況が少しでも「マシ」になることです。

これまでの指導を振り返ると、子供さんに変化がある時期は、指導後、間もなくです。

それは、子供は、非常に柔軟である事が挙げられると思います。彼らは、納得すれば、他人の意見を聞き入れてくれます。一方で、親御さんは、問題を外に求める傾向が、非常に強く「学校、塾、家庭教師、配偶者、祖父母が悪い」これでは、何も解決しません。

責任の回避によって、逆に、問題が長期化し、複雑化します。そして、責任の回避は、子供を「見捨てる」事に直結します。子供達は、孤立無援の状態にあります。彼らが、私に懐き、話をする理由は、私が「良い人」だからではなく、「私しかいない」為です。

親子関係が良好な時、親御さんは、自分の責任を口にされます。一方で、歪みがある場合、「私は悪くない」というのが第一声です。

両親が揃っており、子供が個室を持ち、教育費を多めに支出できる、一見すると、幸せそうなお宅こそが、私の最大の懸案事項です。

受験やスランプを機に、「親子関係」について、再考してみてください。改善により、勉強面にも、プラスとなった例が多々ある為です。

そして、親御さんに落ち度がある場合、その都度、謝罪してください。子供に頭を下げる事は、「負け」ではありません。むしろ、親御さんの懐の深さを示す尺度になります。

私は、失敗が多い人間ですので、謝罪の機会が多いです。子供は、私にフォローもしてくれます。子供達の寛大さに触れる時です。

また、私事で恐縮ですが、問題を抱えたお宅を回る私の体調は、万全とは言えません。けれども、私以上に、困難な状況にある生徒さんが、世の中には大勢います。その事実を、黙殺できる人間であれば、私がこの仕事をし、その上、本を書いたりはしないでしょう。

この本に対し、様々な、ご批判や、お叱りはあるでしょう。けれども、私は、この本により、受験に対する親御さんの考えが転換する可能性に賭けています。加えて、子供の環境が、多少なりとも変わる事を願っています。

好転した事例が、たった一つでも、この本を書いた意味はがあると、私は考えています。

最後に、お孫さんの様子や、配偶者の様子に、危惧を抱いている方もおられるでしょう。

その場合「例え話」が有効です。

中学受験をされる親御さんは、「他人」の失敗には、「気持ちは分かる」と言う具合に、同情されます。この本の事例を、話してあげて下さい。大切なのはタイミングです。「このままでいいのかな？」と感じた時が好機です。

状況を客観的に見る事が重要だと思います。

指導先の生徒さん

指導先の親御さん

ご近所の皆さん

バイト先の元同僚の皆さん

友人・知人（母の友人の皆さん）

親戚の皆さん

応援してくれている家族

そして 今もなお

鬼瓦のような顔で

上から見守ってくれているであろう

亡き父

以上の皆様に

この本を捧げると共に

この本を読んでもくださった皆様に

心より感謝申し上げます